

7・1 海賊問題への対応

1. 海賊事件の発生状況

(1) 世界における発生件数

国際商業会議所 (International Chamber of Commerce = ICC) の下部組織である国際海事局 (International Maritime Bureau = IMB) の海賊情報センター (クアラルンプール) の年次報告によれば、全世界における 2003 年の海賊事件 (未遂事件も含む) の報告件数は 445 件で、2002 年より 75 件、約 20.3% 増加し、過去最高を記録した 2000 年の 469 件に次ぐ高い水準となった。

地域別発生件数を見ると、東南アジアが 170 件 (38%) で、依然として世界で最も海賊事件の多い地域となっており、これにアフリカ (93 件)、インド等 (87 件)、アメリカ (72 件) が続いている。東南アジアの海賊事件のほとんどはインドネシア (121 件) で発生している。マラッカ海峡は 2001 年 (17 件)、2002 年 (16 件) と、ここ数年減少傾向にあったが、2003 年は 28 件と増加した。

また、ハイジャック事件は、ここ 2、3 年、増加傾向を示していたが、本年は 19 件であり、前年の 25 件から減少した。([資料 7-1-1](#) 参照)

(2) 日本関係船の発生件数

国土交通省海事局外航課は、わが国の外航海運事業者 (201 社) に対してアンケート調査を実施し、2003 年におけるわが国関係船舶 (邦船社が所有、運航、用船している外航船舶) に対する海賊事件について発表した。その概要は以下のとおりである。

被害件数

2003 年において、わが国関係船舶が海賊に襲われた発生件数は 12 件で、前年の 16 件から減少した。被害船の船籍別の内訳は、パナマ籍 11 隻、香港籍 1 隻となっており、日本籍船は襲われていない。また、日本人が乗船していた船舶は 1 隻であった。

発生海域

地域別に見ると、従来と同様、インドネシア周辺を主として東南アジア海域で 11 件 (91.7%) 発生している。

被害状況

被害の事例としては、銃器の発砲を伴う凶悪な事件、白昼や航行中に発生した事件も報告されている。襲撃形態としては、錨泊中または停泊中の船舶に小型ボートで密かに接近し、錨鎖をよじ登って甲板上に設置された救命いかだや、倉庫内の船用品を盗むケースが多く見受けられる。また、乗組員が負傷したケースも 2 件報告されている。

2. わが国および当協会の対応

(1) アジア海賊対策地域協力協定

海賊対策に関する地域的な取組みを協議するため、2001 年 10 月、外務省主催による「海賊対策アジア協力会議」が東京において開催され、アジア 17 カ国・地域の官民関係者、国際海事機関 (IMO および国際海事局 (IMB)) の代表者が参加した。同会議では海賊対策について、多国

間の地域協力が必要不可欠であり、そのために何らかの法的枠組みが必要との認識が共有された。

その後、同年 11 月のプルネイでの ASEAN+3（日中韓）首脳会において、小泉総理大臣がアジアの海賊問題に有効に対処すべく、地域協力促進のための法的枠組み作成を提唱した。これを受け、わが国主導の下、ASEAN 諸国、中国、韓国、インド、スリランカ、バングラディシュが協定の作成交渉に参加し、「アジア海賊対策地域協力協定」が作成された。

同協定は、海賊に関する情報共有体制と各国協力網の構築を通じて海上保安機関の協力強化を図ることを目的としており、その規定の概要は次のとおりである。

- ・ 情報共有センターの設立
- ・ 同センターを通じた海賊行為等に関する情報共有体制および協力体制（容疑者、被害者および被害船舶の発見、容疑者の逮捕、容疑船舶の拿捕、被害者救助の要請等）の構築
- ・ 同センターを経由しない締約国同士の二国間協力の促進（犯罪人引渡しおよび法律上の相互援助の円滑化、ならびに能力の開発等）

同協定は、2004 年 11 月、東京で開催された政府専門家会合において採択されるとともに、シンガポールに情報共有センターを設置することが決定された。

なお、同協定は、10 番目の締約国が国内手続の完了を寄託者（＝シンガポール政府）に通告してから 90 日後に発効することとなっている。

（２）海上保安庁による取組み

アジア海賊対策チャレンジ 2000

2000 年 4 月、海上保安庁等の主催による「海賊対策国際会議」が東京において開催され、アジア 15 カ国・26 地域からの海上警備機関の代表者が参加した。同会合では、海賊問題への取組みの強化、および国際的な連携・協力の推進のための指針となる「アジア海賊対策チャレンジ 2000」が採択された。

海賊対策専門家会合

「アジア海賊対策チャレンジ 2000」に基づき、関係国・地域の海上保安機関の連携・協力のさらなる推進について協議が行われており、わが国海上保安庁は会合開催の支援を行っている。これまでの会合の開催状況は次のとおりである。

- | | |
|-------------|------------------------------|
| 2000 年 11 月 | ：マレーシア首相府国家安全保障部主催（クアラルンプール） |
| 2002 年 3 月 | ：インドネシア海運総局主催（ジャカルタ） |
| 2003 年 3 月 | ：フィリピン沿岸警備隊主催（マニラ） |
| 2004 年 2 月 | ：タイ王立警察主催（パタヤ） |

巡視船等の派遣

海上保安庁は「アジア海賊対策チャレンジ 2000」に基づき、各国との相互協力と連携強化を図る一環として、2000 年から東南アジア周辺海域に巡視船等を派遣して各国海上保安機関との連携訓練を行っている。

（３）当協会の取組み

当協会は、上記の海上保安庁による巡視船派遣の際、その航海の途上にある巡視船と、当協会会員船社が運航する船舶との間で海賊情報伝達訓練の実施に協力している。

訓練実績は次のとおりである。

- 2001 年 7 月 ： 巡視船「しきしま」と LNG 船（日本郵船運航）
- 2001 年 11 月 ： 巡視船「みずほ」と VLCC（商船三井運航）
- 2001 年 12 月 ： 巡視船「りゅうきゅう」と LNG 船（商船三井運航）
- 2002 年 3 月 ： 巡視船「やしま」と LPG 船（川崎汽船運航）
- 2002 年 10 月 ： 巡視船「やしま」と VLCC（共栄タンカー運航）
- 2003 年 7 月 ： 巡視船「やしま」と PCC（川崎汽船運航）
- 2003 年 11 月 ： 巡視船「みずほ」と PCC（川崎汽船運航）
- 2004 年 11 月 ： 巡視船「みずほ」と LNG 船（商船三井運航）

また、当協会会員会社へ海賊被害の通報の励行を呼びかけるとともに、アジア船主フォーラム（ASF）の航行安全・環境委員会（SNEC）において、海賊問題について意見交換を行った結果、各国船協が一致して自国政府に対策の強化を働きかけることとなった。

〔資料 7 - 1 - 1〕IMB（国際商工会議所の国際海事局）による
2003 年次報告書の概要（1993 年～2003 年統計）

表 1：発生件数

年	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
発生件数	103	90	188	228	247	202	300	469	335	370	445

海賊発生件数の推移

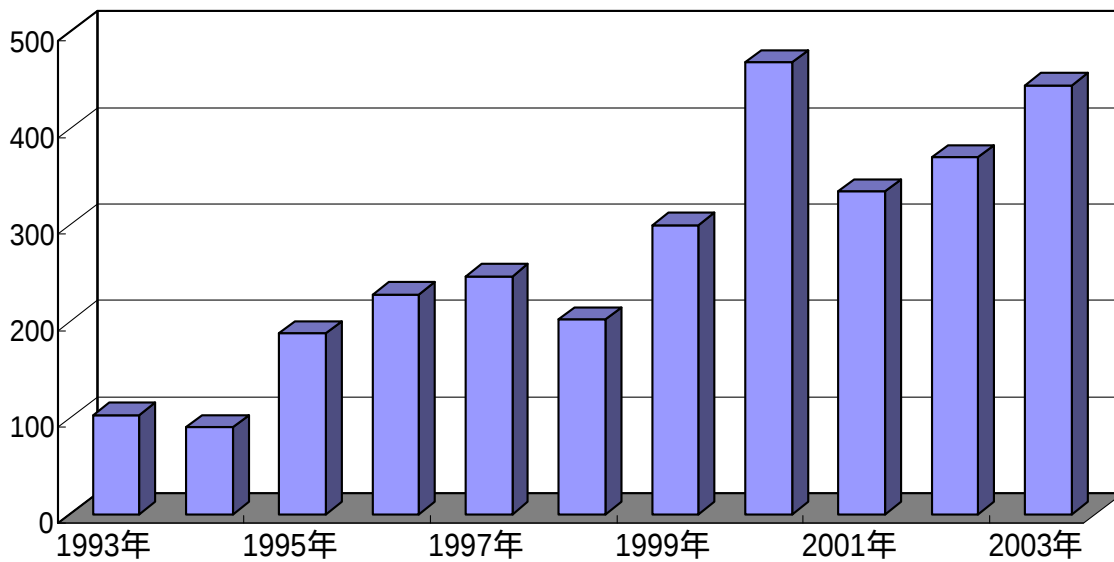


表 2：発生地域

	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
東南アジア	16	38	71	124	92	89	161	242	153	153	170
極東	69	32	47	17	19	10	6	20	17	17	19
印度亜大陸	3	3	16	24	40	22	45	93	53	52	87
南北アメリカ	6	11	21	32	36	35	28	39	21	65	72
アフリカ	7	6	20	25	46	41	55	68	86	78	93
その他	2	0	13	6	14	5	5	7	5	5	4
年間計	103	90	188	228	247	202	300	469	335	370	445

表 3：襲撃時の状況 2003 年 ()内は未遂事件

地域	着岸中	錨泊中	航行中
東南アジア	5(0)	42(7)	61(55)
極東	1(1)	14(0)	1(2)
印度亜大陸	17(1)	38(7)	23(1)
南北アメリカ	30(1)	23(2)	7(9)
アフリカ	7(0)	37(6)	22(21)
その他	1(0)	2(0)	1(0)
合計	61(3)	156(22)	115(88)
総計	332(113)		

表 4：襲撃の種類

襲撃の種類	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
侵入未遂	33	22	27	36	18	25	46	143	83	71	93
発砲	16		9	6	24	11	12	8	14	13	20
侵入	36	54	129	180	174	145	227	307	219	257	311
ハイジャック	8	5	12	5	17	17	10	8	16	25	19
抑留		6	11		8	4	1	2	1		
不明	10	3		1	6		4	1	2	4	2
合計	103	90	188	228	247	202	300	469	335	370	445

表 5：武装状況

武器	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
銃の所持	29	17	39	32	71	48	54	51	73	68	100
ナイフを所持	7	13	9	23	31	40	85	132	105	136	143
その他の武器	2	6	34	54	24	18	24	40	39	49	34
不明	65	54	106	119	121	96	137	246	118	117	168
合計	103	90	188	228	247	202	300	469	335	370	445

表 6：乗組員に対する暴行

	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
人質	6	11	320	193	419	244	402	202	210	191	359
脅迫	1	8	59	56	119	68	21	72	45	55	65
暴行	4		2	9	23	58	22	9	16	9	40
傷害	3	10	3	9	31	37	24	99	39	38	88
殺害			26	26	51	78	3	72	21	10	21
行方不明							1	26		24	71
合計	14	29	410	293	643	485	473	480	331	327	644